ハンドマイク街頭演説原稿例　安倍政治からの転換を今こそ

二〇二四年七月十二日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　自民党の元総理大臣、安倍晋三さんが選挙演説中に銃撃されて亡くなってから２年が経ちました。暴力で言論を封殺するなど、断じて許されない暴挙であることを、日本共産党は改めて訴えます。一方、第１次政権を合わせると戦前を含めて歴代最長の在任期間となった安倍政権の日本の政治や社会に残した影響、特にマイナスの影響はとても大きく、亡くなったからと免罪するわけにはいきません。

　安倍政治を振り返って第一に指摘すべきことは、立憲主義と「法の支配」の破壊をもたらしたということです。この流れはその後の菅義偉政権、現在の岸田文雄政権に引き継がれている、大変重大な問題です。典型的なものが、「憲法９条の下では海外での武力行使は許されない」という政府見解をひっくり返し、自衛隊が海外で武力を行使することができるという閣議決定を、２０１４年に行ったことです。この方針転換は、憲法を変えるに等しい大転換です。それを憲法改定どころか国会の議決もなく、単なる一内閣の決定でしかない閣議決定によって強行したことは、憲法が権力を縛るという立憲主義をこわす暴挙であり、認めるわけにはいきません。そうしてすすめられているのが、今に続く日本を「戦争する国」に作り変える動きです。

　安倍政権が国会を軽視したり、政治を私物化したりしてきたことも、日本の政治、民主主義のありかたに重大なマイナスの影響をもたらしました。「モリ・カケ・桜」というと、思い出す方も多いと思います。森友学園への国有地の格安払い下げや、安倍さんのお友だちが理事長を務める加計学園に便宜が図られた疑惑です。これらの問題をめぐって、国会でウソの答弁や公文書の改竄（かいざん）、隠蔽（いんぺい）が起きました。税金で行われる「桜を見る会」を、自分の後援会員をもてなすために使っていたことも明らかになり、大問題となりました。

　一方、国民生活をめぐっては、社会保障改悪と２度にわたる消費税の引き上げで、家計消費を冷え込ませました。円安と株高を誘導して輸出大企業や株主をもうけさせましたが、労働者の賃金には回らず、内需が低迷し、経済成長ができなくなっています。円安が止まらず、物価が高騰、国債残高が膨張し、異常な金融政策から抜け出す展望が見えません。

　安倍総理の退任後も、自民党は安倍政治を転換することができずに来ました。その結果、自民党はいま、深刻な行き詰まりに直面しています。これ以上、自民党に日本のかじ取りを任せられません。国民の力で政権を代え、安倍政治から転換するため、日本共産党は引き続き全力でがんばります。皆さんのご支援、ご協力をお願いいたします。

　自民党の裏金問題を最初に取り上げた、日本共産党の発行する「しんぶん赤旗」をこの機会にぜひお読みいただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）